

整地・運搬・積込み用機械を起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	2	6 ～ 8	被災者が事業場敷地内（屋外）を暖機運転を行うため重機が置かれている場所に徒歩にて移動中、背後より、他の労働者が運転し前進中であるホイールローダーにひかれたもの。	150102	10～ 29
2021	6	10 ～ 12	事業場敷地内において、同僚の運転するトラクター・ショベル（車両系建設機械、機体質量11t）が通過した後に、うつ伏せになって倒れている被災者が発見されたもの。倒れた被災者の頭部付近の地面には血痕が残っていた。トラクター・ショベルは敷地内の屋内保管ヤードから製品置場に向かってRPF（廃棄物固形燃料）を運搬する途中だった。	150102	30～ 49
2021	6	14 ～ 16	被災者は、金属探知機付きベルトコンベヤーが停止したため徒歩で操作室から当該コンベヤーに行き復旧させ、再び徒歩で操作室に戻っている途中、トラクター・ショベルが通行する通路において走行中（前進）のトラクター・ショベルにひかれ死亡した。	20201	50～ 99
2021	10	8 ～ 10	発注者の担当者2名が現場確認をする様子を、現場代理人が写真撮影しようと、後ろ向きに下がったところ、下請労働者の運転するドラグショベルが後退しており、右履帯の後方に左足膝下を轢かれたもの。	30199	1～9
2021	10	10 ～ 12	事業場敷地内において、同僚労働者がトラクター・ショベルのバケットに製品を入れた状態で運搬用の下り坂道を走行していたところ、前方を歩いていた被災者を前輪で轢いた。	20201	10～ 29
2021	12	14 ～ 16	ブル・ドーザーに胸を轢かれた状態で発見されたもの。災害発生時は一人作業で、発生時間や作業内容等は不明。発見時、ブル・ドーザーは、場内の排水路に突入した状態で、エンジンは停止していた。現場内には20～30cm程度の積雪があったことから、除雪作業中に発生したものと思われる。	20201	1～9

2020	1	10 ～ 12	製鉄所構内の高炉付近において、ベルトコンベヤから落下し、堆積したコークスの破片や粉じんを、被災者がホイルローダーを運転して集積場所へ運搬する作業を単独で行っていたところ、ホイルローダーを後退させた際に背後にあった常設の階段とハンドルとの間に胸部を挟まれ、死亡したともの。	11001	100 ～ 299
2020	2	10 ～ 12	太陽光発電所建設工事現場の雨水排水工事において、プラスチック側溝を仮置き場から施工箇所付近まで運搬する業務を行っていた際に、施工箇所付近にて不整地運搬車に積まれた側溝をドラグ・ショベルを用いて荷下ろし作業を行うにあたり、被災者が不整地運搬車の後ろで玉掛け用ベルトスリングを持って待機していたところ、近づいてきたドラグ・ショベルと不整地運搬車の間にはさまれ、死亡したもの。	30109	1～9
2020	4	16 ～ 18	産業廃棄物プラントにおいて、エンジンがかかった状態で停止していたトラクターショベルに対し被災者がメンテナンス作業をするため重機左側前輪と後輪の間に入り作業を行っていたところ、別の運転手が被災者に気付かず前進させたため、左後輪に巻き込まれたもの。	150102	1～9
2020	6	0 ～ 2	ブル・ドーザー（15トン）のオペレーターとして入場していた被災者が、運転席から無限軌道上に落下、そのまま無限軌道に運ばれ、ブル・ドーザーの下敷きになり、死亡したもの。被災者は後方でドラグショベルを運転していた作業員に声をかけるため、キャビンを開放し、運転席から立ち上がり、身を乗り出した状態で、運転しながら、後方に向かって声を出していたところ、バランスを崩し、無限軌道上に落下したとされる。	30106	30～ 49
2020	8	10 ～ 12	作業員5名が漁港での昆布の洗浄作業を行っていたところにトラクター・ショベルが暴走して突っ込み、労働者2名を含む計4名の作業者が被災。労働者の内1名が死亡したもの。災害発生当時、漁港では他に数名の作業者が昆布の洗浄作業に従事していた。	70201	1～9
2020	11	14 ～ 16	被災者はトラクター・ショベルのバケット及びリフトアームを稼働させる各シリンダの油圧ホースの交換を行っていた。左右にあるリフトシリンダの油圧ホースを交換した後、ダンプシリンダの油圧ホースを交換するため、車両前面の点検口より油圧ホースの取り外しを行っていた際に、リフトアームが	80209	1～9

			下降し、リフトアームと車両本体との間に上半身をはさまれたもの。		
2020	11	10 ～ 12	被災者は、災害復旧護岸工事でフレコンバックの土のう（高さ1 m、重量1 t 程度）に玉掛けするため、ドラグ・ショベル（クレーン機能なし、総重量15 t）のオペレーターに合図をし、バケットを被災者の頭上位置に停止させた。被災者の玉掛け開始後、オペレーターが足に痛みを感じて腰を上げた際に左袖がブームのレバーに触れ、安全レバーのロックをかけていなかったため、バケットが急降下し、被災者の頭部に直撃しはさまれた。	30107	1～9
2019	6	4 ～ 6	コークス工場にある「ガイド車」のレールが敷設されている「プラットホーム」（幅約3 m）において、そこに落ちているコークス屑の撤去作業をトラクターショベル1台を用い、被災者を含む5名で行っていた。プラットホーム中央に掻き寄せたコークス屑をトラクターショベルで掬い上げ、後退していたところ、その後部にいた被災者が轢かれた。	150109	10～ 29
2019	10	16 ～ 18	被災者は、採石場において、場内を走行していたトラクター・ショベルの進路に立ち入ったため、トラクター・ショベルと接触後その前輪に轢かれたもの。	20201	1～9
2019	11	6 ～ 8	生コンプラント工場敷地内において、トラクターショベルを使用して作業中であった同僚が、トラクターショベルからドラグショベルに乗り換えるため、トラクターショベルを構内の隅に後進で移動させようとしたところ、近くを歩行中であったコンクリートミキサー車運転手（被災者）に接触して右後輪で轢いたものである。	10901	10～ 29
2019	12	6 ～ 8	牛の飼料生産の受託先の敷地内で、トラクター・ショベルでバンカーと呼ばれる飼料置き場の飼料をならしていた際、近くに居た被災者が自分の持ち場に戻っていったところを確認したため、停車させたトラクター・ショベルを前進させたところ、被災者が急に後ろ向きによろめき、後頭部から地面に倒れたため、ブレーキが間に合わず、トラクター・ショベルの右前輪に轢かれ、死亡したもの。	11709	30～ 49
		16	造成工事中、スクレイパーの運転手が打ち合わせのため、運転席から降りて履帯の上に立ち、近くにいたブルドーザーの運転手と話をしていたところ、		10～

2018	6	～ 17	スクレーパーが動き出して履帯から前方に転落し、両大腿部を履帯に轢かれ被災した。現場は下り勾配（約10%）であった。	30109	29
2018	7	8 ～ 9	夜間、ずい道掘削を行っていたが、電線の長さが足りなくなったため、予定を変更し、朝から路盤整地等の作業を行うことになった。切羽前に残っていたズリをバックホウで寄せ集め、後方で大型タイヤショベルが待機していた。隣の小型バックホウが物を取りに前へ移動しようとしたため、これを除けようと大型バックホウが斜めに後退した後、前へ進んだ。小型バックホウが後ろへ戻ったところ、被災者が倒れているのを発見した。	30102	30～ 49
2017	1	12 ～ 13	タイヤ会社において、荷物搬送用エレベーターの点検作業を行っていた被災者が搬器の上端の梁と2階エレベーター出入り口部の上部との間に上半身と右足を挟まれた状態で発見された。	170201	10～ 29
2017	2	10 ～ 11	ガソリンスタンドの敷地内において、労働者がトラクターショベル（機体重3トン以上）を運転して、寄せ集められた雪を4トントラックへ積み込む作業を一人で行っていた。その作業中、トラクターショベルを後退させた際にガタンという音がしたため、運転席から降りて確認したところ、仰向けで地面に倒れている被災者を発見した。	150102	100 ～ 299
2017	5	12 ～ 13	トラクター・ショベルを使用したハッチ（子牛を飼育する木製の小屋）の移動作業において、トラクター・ショベルのバケットを上げ、ハッチをバケットから吊り下げた状態で走行していたところ、タイヤが何かに乗り上げた感触があり、運転者はトラクター・ショベルを停めて、運転席から降りトラクター・ショベルの左側を見ると被災者が倒れているのを発見した。	70101	10～ 29
2017	6	10 ～ 11	再生砕石である路盤材の置き場において、路盤材に混入している異物を除去する作業を行っていた被災者が、後進してきたトラクター・ショベル（機体重3トン以上、バケット容量3m ³ ）の右後方タイヤに轢かれた。	150102	1～9
2017	7	8 ～ 9	物流倉庫内に積まれた粉末の飼料を移動させるため、一番高い位置に上げたトラクターショベルのバケットを降下させている時に、近くにいた被災者が運転席前方に入り込み、アームとショベルカー本体に胸を挟まれた。	50202	1～9

2017	7	12 ～ 13	ほ場区画整理工事現場において、被災者はブル・ドーザー（機体重量7トン）を運転し整地作業中、エンジンを掛けた状態で運転席を降り左側クローラの上に立ったところ、ブル・ドーザーが後進し被災者は地面に墜落、クローラに轢かれた。	30109	30～ 49
2017	10	12 ～ 13	自社倉庫内において、大型トレーラーにバラ積みされた粃殻を下ろし、ホイール式トラクター・ショベルを使用して当該粃殻を倉庫奥に押し込む作業が行われていた。被災者は別の大型トレーラーの運転手であり、倉庫の外で順番待ちをしていたが、何らかの理由により倉庫内に歩いて進入したところ、後進してきたホイール式トラクター・ショベルの後輪に轢かれた。	40301	10～ 29
2017	11	12 ～ 13	被災者が、売却予定であったブルドーザーの燃料をトラックの荷台に置かれたドラム缶に移す作業を行っていたところ、ブルドーザーが動きだし、ブルドーザーの左後方角とトラックの左側ドアの間に挟まれた。	30106	10～ 29
2017	12	20 ～ 21	構内において、被災者がコンクリートミキサー車の洗車のため通行していたところ、他の構内下請事業者の労働者が運転するトラクター・ショベルにはねられた。	40301	10～ 29
2016	1	16 ～ 17	道路の舗装工事で路盤整正作業中に、傾斜している道路の山側にモーターグレーダーを停車させ、運転手が運転席から降りた後、谷側の作業の様子を見に行った時に、モーターグレーダーが斜面を逸走し始め、谷側で作業をしていた労働者を轢いて付近の空き家に衝突して止まった。	30106	10～ 29
2016	1	9 ～ 10	土地造成工事において、ブル・ドーザーの運転手が、前日駐機していた場所から指示された作業箇所に走行中、深さ約1.2メートル、法面勾配約40度の道路敷設予定の掘削部に降りた際、運転席より車外に転落し、同機の履帯（クローラ）に巻き込まれた。同ブル・ドーザーは無人のまま約86メートル自走し、電柱に衝突し停止した。	30199	30～ 49
2016	2	9 ～ 10	電気操作室内のストーブへの灯油供給に伴い、被災者は、ポリ容器内部の汚れを灯油で落とし、これを廃棄するためプラント作業場に立入っていたところ、同僚の運転するトラクターショベルに轢かれ、頭部挫滅により死亡した。	20201	10～ 29

2016	3	13 ～ 14	被災者と同僚2名がブル・ドーザーの運転席以外の場所に乗車し、土場から地拵作業現場（尾根付近）まで移動した。作業現場に到着した当該ブル・ドーザーが、帰路に向けて方向転換するために旋回し後退した時、ブル・ドーザー後部（ウインチ部）に乗車中の被災者が、降車し又は振り落とされたため、後退中のブル・ドーザーに轢かれた。	60209	1～9
2016	5	22 ～ 23	道路工事のトンネル内において、坑口から760m地点で被災者が発破後の切羽の状況を点検した後、切羽から坑口に向かって歩いていたところ、切羽から坑口方面に後進してきたホイールローダーに轢かれた。	30102	30～ 49
2016	7	13 ～ 14	下請として施工中の解体現場から搬出された家屋廃材等を4t車（アームロール）により、事業場に搬入した。所定の位置にダンプアップにより廃材を降ろした後、車両から降り荷台のあおりを閉める作業を行っていたところ、他の作業者が運転するホイールローダーが後進してきたため、被災者は車両荷台とホイールローダーの後部に挟まれた。	30209	10～ 29
2015	12	11 ～ 12	会社の敷地内で、建築資材の整理作業において事業主がトラクター・ショベル（機体重量3.36T）により建築廃材をコンテナに積み込みし、同ショベルを後進した時に、木片の盛りに混じったゴミを拾おうと被災者が同ショベルの後側に立ち入ったために、同ショベルに轢かれたものである。	30199	10～ 29
2015	1	16 ～ 17	接岸中の貨物船の船倉内において、石炭をブル・ドーザーにより集める作業を行っていた被災者が、1.4mの落差のある箇所を走行した際にブル・ドーザーの運転席から投げ出された。ブル・ドーザーはそのまま走行し続けたため、被災者は再度運転席に戻ろうとし、その際に履帯（クローラ）に巻き込まれ、下敷きとなり、全身を圧迫され死亡したものの。	50202	100 ～ 299
2015	5	8 ～ 9	被災者等6名は、船舶にカンラン岩を積み込むため、岸壁側に移動式のコンベヤーを設置する作業を行っていたが、設置したコンベヤーの位置を修正することとなり、下請け事業場の作業者がコンベヤーの乗っている架台の後方をトラクターショベルのバケットで持ち上げて、そのまま後方に移動させたところ、近くを歩行していた被災者がコンベヤーの架台の車輪にひかれて死亡した。	50202	50～ 99

2015	12	11 ～ 12	伝票を受領するため、碎石工場敷地内にダンプカーを止め、当該敷地内事務所へ徒歩で向かっていたところ、後進して荷（山砂）を運んでいた、碎石工場のトラクター・ショベルに轢かれ死亡したものである。	40301	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	プラントにて、被災者の同僚作業員がトラクター・ショベル（機体重量5250kg）を運転して堆肥（残渣と牛糞）を混合させる作業を行い、被災者はトラクター・ショベルの後方でスコップを使用して堆肥の後始末をしていた。同僚作業員がトラクター・ショベルを後退させたところ、後方にいた被災者に気がつかずに轢いてしまった。	11709	1～9
2014	10	11 ～ 12	同僚が、プラントにて、トラクター・ショベルを運転し、砂利等の運搬作業を行っていた際、通路上に被災者がいることに気が付かず、接触し、地面に倒れている被災者が発見された。	20202	1～9
2014	10	9 ～ 10	構内にて、被災者が、20メートル程離れた場所にいたドラグ・ショベルオペレーターに作業開始の合図を送っていたところ、トラクター・ショベルオペレーターが、後方に被災者がいることに気付かず、車両系建設機械を後退させ、被災者が轢かれ、死亡した。	10909	1～9
2013	7	16 ～ 17	船積設備の地下通路（高さ約1.4m）の埋戻し作業を、ミニドラグ・ショベル（機体重量870kg）を運転して行っていたところ、地下通路の天井とミニドラグ・ショベル運転席の安全バーに首を挟まれた。	30209	10～ 29
2013	11	16 ～ 17	河川の築堤工事現場において、場内にあった4tダンプのバッテリーが上がっていたため、同場内のブルドーザーをダンプに横付けし、お互いのバッテリーをケーブルで繋いでいたところ、ブルドーザーが突然後退し、ブルドーザーの左クローラー後部で作業を見ていた被災者が轢かれた。なお、ブルドーザーはエンジンをかけたままであった。	30199	10～ 29
2013	4	13 ～ 14	被災者は、廃車を処理する作業場にて、乗用車1台を運搬中のトラクター・ショベルにひかれて死亡した。	150103	50～ 99
		13	土砂置場で、ダンプカーの運転手である被災者は、同僚の労働者が運転する		

2012	11	11 ～ 14	ドラグ・ショベルに轢かれた。	30199	1～9
2012	11	8 ～ 9	客先事業場木材チップ仮置き場において、被災者はトラックにて木材チップを搬入した後、トラックを降りて木材チップ仮置き場に行き、チップサンプルを採取していたところ、客先労働者が運転し、後進しているトラクター・ショベルに轢かれた。	150102	10～ 29
2012	4	14 ～ 15	農業用水路の配管設置工事の一環として、深さ1.68mの農業用水路内で小型バックホウの排土板を用いてバックで運転しながら用水路の底の堆積物を寄せ集める作業を行っていたところ、用水路に渡された梁に背中を押される格好で、梁と小型バックホウの運転席との間に挟まれた状態で同僚の労働者に発見され、外傷性窒息により死亡した。	30199	1～9
2012	9	9 ～ 10	砂利の混合作業を行うため、トラクターショベルをバック走行で作業場所に向かっていたところ、砂利を野積みする場所を写真撮影するために後方を歩いていた被災者に気づかずに轢いてしまった。	80209	1～9
2012	6	11 ～ 12	被災者は前日の台風により地山の一部（傾斜20度）が崩壊したことに伴う復旧作業を行っていたところ、自身が運転するホイールローダーが何らかの原因により転倒し、被災者が車体から投げ出された後、当該ホイールローダーと地面との間に挟まれ、死亡した。	140301	30～ 49
2012	9	16 ～ 17	キノコ栽培で使用が終わったおがくずをトラクターショベルを使用して掻き上げた。作業終了後、トラクターショベルの置き場に戻る途中の作業道（下り坂）にて、当該トラクターショベルが横転した。	60101	10～ 29
2011	2	12 ～ 13	スキッドステアローダー（小型車両系建設機械：ホイール式トラクターショベル）の走行装置の修理作業中、運転席から身を乗り出すような姿勢で立ち上がったときに、アーム上下操作の左ペダルを踏んでしまい、アームが上昇して、アームのバケットシリンダー部分とヘッドガード上部に頭部を挟まれ、脳挫傷により即死した。なお、災害は修理依頼に伴い熊本県へ出張し現地修理作業中に発生した。	80209	1～9
		17	木くず破砕チップの積込み作業を行うために事務所の北側から当該積込み作		

2011	2	～	業場所へ向って走行していたトラクターショベルに、場内を歩行中の被災者が上半身を轢かれたもの。	20201	10～ 29
2011	11	～	被災者は、トラクターショベルにて砂利等の運搬作業を行い、作業が終了したため以前原石の貯蔵タンクとして使用していたサイロの下部（高さ約2 m、幅約5 m、奥行き約5 m）にトラクターショベルを片付けようと後進したところ、天井から突き出しているダクトに運転座席が激突し、そのまま運転座席とハンドルの間にはさまれ、窒息により死亡した。	20201	10～ 29
2011	3	～	ブルドーザーを運転して、仮設道路（幅5. 2 m）を後進し、高さ1 m、奥行き約4 mの盛土を乗り越えようとしたところ、運転していた被災者が後ろ側に投げ出され、そのまま進んできたブルドーザーの下敷きになった。	30199	1～9
2011	3	～	被災者は、自社の所有する山林において、木材の運搬業務のため、トラクター・ショベルを運転し同材を牽引していたところ、運搬中の斜面でトラクター・ショベルのクローラーに轢かれ倒れているところを、共に作業していた事業主に発見されたもの。トラクター・ショベルは、斜面を逸走して沢に転落し、エンジンがかかった状態で発見された。	60209	1～9
2011	5	～	港に停泊中の貨物船からのフレコンバック（内容物石灰、重量約1 t）の荷降ろし作業（トラッククレーンで船から港に降ろし、トラクター・ショベル（アタッチメントはフォークに交換）で保管場所に運搬する）において、同僚と2人でハッカーからフレコンバックを外し、トラクター・ショベルに取り付けたフックにフレコンバック2つを取り付けていた被災者が、トラクター・ショベルにひかれて倒れているところを発見されたもの。	40301	10～ 29
2010	9	～	石炭バースに停泊している船舶の石炭の積み卸し作業が終了し、ハッチ内のトラクターショベルをクレーンにより陸揚げするために、トラクターショベル運転者である被災者がバケットを水平位置まで上げ、エンジンをかけたまま運転席を降り、アームの下に入って玉掛けを行おうとしていたところ、バケットが下降し、アームと機体フロント部の間に頭部をはさまれ死亡したものの。	50202	1～9

2010	7	16 ～ 17	大雨の影響で鶏舎横の裏山が崩れ土砂が鶏舎横に堆積していたため、被災者がトラクターショベルを使用して崩れた土砂を除去していた。夕刻になり帰宅中の従業員が土砂の運搬を行っていた箇所の法面下に重機が横転しているのを確認したが被災者の姿が見あたらないため帰宅した。翌日になっても、重機が横転したままになっていたため、重機の下を確認したところ、被災者が下敷きになっているのが発見された。被災者がトラクターショベルの運転操作を誤り、法面から重機が転落し、その下敷きになったものとみられる。	70101	10～ 29
2010	6	13 ～ 14	S造2階建ての建築物の解体工事現場において、解体粉碎した瓦礫の選別作業を行っていた被災者が、後退してきたドラグ・ショベルのキャタピラに下半身を轢かれ、搬送先の医療機関で死亡したもの。ドラグ・ショベルの運転手が後方の被災者に気付かなかったもの。	30309	10～ 29
2010	2	15 ～ 16	被災者と計測者で誘導柱の基礎の高さを計測した後、被災者は、重機（ドラグショベル）の横を歩いていた時、重機の運転者は被災者がいることに気付かず、重機を移動させたため、重機の履帯に被災者の左足が轢かれた。被災者は、病院で手術を受け治療中であったが、19日後に死亡した。	30199	10～ 29
2010	1	8 ～ 9	トラクターショベルを用いて事業場敷地内の除雪作業中、同僚に声をかけられキャビンから身を乗り出した際、アーム上昇ペダルを踏み込んでしまい、上昇したアームとキャビンフレームの間に首を挟まれ、死亡した。	120102	100 ～ 299
2009	7	16 ～ 17	田畑のかさ上げ作業において、ダンプトラックで運搬してきた土砂をドラグ・ショベルの排土板を使って均していたところ、ダンプトラックの荷台のあおり上に残っていた土砂を取り除いていた被災者が前進してきたドラグ・ショベルのバケットとダンプトラックのあおりの間にはさまれた。	30109	1～9
2009	6	14 ～ 15	被災者が、系列会社の採石場内にある産廃施設でコンクリートと金網の分別作業を行っていたところ、碎石を運搬してきた採石場のトラクター・ショベルにひかれた。	30106	10～ 29
2009	9	16 ～	被災者は、トラクター・ショベルが構内でバケットを上げ、運転者が運転席で待機している状態で停車していたため、当該トラクター・ショベルのバケットと車体本体の間にあるヒンジ部にグリスを注入する作業を始めたが、	10804	1～9

		17	運転者は被災者が当該箇所で作業していることに気が付かず、トラクター・ショベルを前進させたため、左前方車輪にて被災者をひいた。		
2009	3	13 ～ 14	躯体解体工事完了後の土間コンクリート上で、土間上の碎石をドラグ・ショベルで集積作業中、近くで掃き掃除を行っていた解体工が後進するドラグ・ショベルのクローラにひかれた。	30209	10～ 29
2009	2	16 ～ 17	民間発注工事の商業用地開発造成工事において、碎石を車両系建設機械（ブル・ドーザー）で敷き馴らし作業を行っていた被災者が、後進していた車両系建設機械のクローラの下敷きになった。当該機械は進行方向に止めてあったダンプに衝突し停止した。	30199	10～ 29
2009	8	7 ～ 8	畑の改良工事において、被災者はブル・ドーザーにエンジンオイルを注入後、自らエンジンをかけた。ギアが後進（2速）に入り、また、駐車ブレーキを引いていなかったため後進し、クローラとステップ等との間に巻き込まれ、地上に墜落した。	30199	30～ 49
2008	10	15 ～ 16	作業員2名にてトラクター・ショベルの修理中、バケットを上げて既設の擁壁上にバケットの左端部分を載せ、被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットの間に立ち、ボンネット内の電気系統の機械（メインコントロールバルブ）の取り外し等をしていたところ、擁壁からバケットが落ち、ブームが降下して被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットにはさまれた。	11701	10～ 29
2008	6	17 ～ 18	産業廃棄物の積換え保管場所において、トラックで運搬されてきた産業廃棄物の分別作業を行っていたところ、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	150102	1～9
2008	6	10 ～ 11	ブル・ドーザーの履帯と乗降ステップとの間に身体がはさまれて即死の状態で発見された。発見時、パーキングブレーキがかけられておらず、原動機も止められていない状態であり、排土板は地上におろされていた。作業場所は10度程度の勾配があり、排土板が地面を後退しながら掻いた痕が約3mの距離で認められた。	20201	10～ 29
2008	1	10 ～	トラクター・ショベルの現場出張修理を事業場の駐車場で行っていた時、トラクター・ショベルの下にもぐって作業をしていた被災者が、突然動き出し	11701	1～9

		11	たトラクター・ショベルの下敷きになった。		
2008	10	8 ～ 9	ドラグ・ショベルのバケットを交換するためにドラグ・ショベルを後進した際、ドラグ・ショベルの脇に停車していたダンプトラックから降りていた被災者をひいた。	30106	10～ 29
2008	8	10 ～ 11	ダンプトラックで運搬してきた廃棄物を建屋内に一時保管するため、トラクター・ショベル（機体質量10.5t）で山状に積み上げる作業中に路面に散乱した廃棄物をスコップで掻き取る作業を行っていた被災者が、後退してきたトラクター・ショベルにひかれた。	150103	30～ 49
2008	9	14 ～ 15	被災者は、構内において同僚と2名で製品の間に inser する積木をフォークリフトの後部に載せる作業を行っていたところ、皮はき後の原木を自動送材式帯のご盤まで運搬するために後進してきたタイヤショベル（四輪駆動、フォーク装着）とフォークリフトの後部にはさまれ死亡した。	10401	1～9
2008	8	11 ～ 12	ダンプトラックが運んでくる土砂をブル・ドーザーで単独で均す作業を朝7時頃から行っていた。ブル・ドーザーを後進させている途中に運転席（キャブ）から転落して、クローラとブル・ドーザー本体の間にはさまれて死亡した。	20202	10～ 29
2007	9	8 ～ 9	道路建設工事において、油圧ショベルのバケットに縁石を積んで移動し、次の積み込み場所で油圧ショベルを停止しようとしたとき、ペダルの下に物がはさまっていたため油圧ショベルが停止せずに左側に旋回し、被災者をひいた。	30106	1～9
2007	6	14 ～ 15	道路修繕工事現場において、機体重量3.2tのドラグ・ショベルを運転し舗装路の均し作業を同機を後退させながら行っていたところ、同現場の交通誘導の業務に就いていた被災者が同機のクローラにひかれ、死亡した。	170201	10～ 29
2007	2	14 ～ 15	国道拡幅工事現場において、ブル・ドーザーを後進させているとき、ブル・ドーザーから転落してひかれた。	30106	1～9
		8	社長がドラグ・ショベルを運転し、事業場内のガラを片付けていたところ、		

2007	1	9	～	倒れている被災者を発見した。被災者は手に箒とちり取りを持っており、着衣にはドラグ・ショベルのクローラの跡がついていた。	30309	1～9
2007	1	13	～	被災者は、下水道工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量2.04 t）を運転中、運転席の右窓開口部から身を乗り出したところ、運転席右側にあるドラグ・ショベルアームが上昇し、キャブフレームとアームとの間にはさまれた。	30110	10～29
2007	1	7	～	合材センターのアスファルト材・コンクリート材置場において、被災者が、アスファルト材を積んだダンプトラックの誘導を終えた後、コンクリート材を積んだ2 tトラック誘導のため、コンクリート材置場に走って向かっていく際に、後退しているトラクター・ショベル（建設機械）を横切ったために、トラクター・ショベルにひかれた。	10909	1～9
2007	2	16	～	区画整理地内の区画道路上で、被災者がブル・ドーザー（機体重量7.75 t）を用いて路盤材の敷き均し作業を行っていたが、エンジンを停止させないまま降りたところ、ブル・ドーザーが後進した。これを停止させるために運転席に乗り込もうとしたが転倒し、ブル・ドーザーの排土板にはさまれた。	30199	10～29
2007	9	7	～	被災者は、自社の別工場に出張し、砂利選別プラント点検修理のため、必要となる手工具を持ち出し、歩いて修理場所まで戻る途中、前進するトラクター・ショベルにひかれた。なお、トラクター・ショベルの運転者は、被災者が100 mほど手前で車両の進行方向と対向して歩いていることを目視で一度確認していたが、被災者が見当たらないことに気付き、運転席から後方確認したところ、ひかれた被災者を発見した。	20202	1～9
2007	5	15	～	被災者が解体された建物のガラの分別作業を行っていたとき、ガラの搬出作業のため後進してきた重機（アタッチメントにコンクリート破碎機を装着したもの）にひかれた。	30209	1～9
2007	4	10	～	制御盤に警報が出たため、被災者が警報箇所の点検に向かう途中、無水石膏倉庫に向かっていたホイール式トラクター・ショベルの右側を併走し、トラクター・ショベルの運転者が左折して倉庫に入るため、小回りのきかないト	10909	10～

		11	ラクター・ショベルを右に膨らませたところ、被災者を前輪及び後輪でひいてしまった。		29
2007	4	9 ～ 10	トラクター・ショベルの運転手が傾斜地にトラクター・ショベルを停車して降りたところ、急にトラクター・ショベルが後退したため、これを当該運転手が止めようとしたが、静止し切れずに当該トラクター・ショベルとその後退先にあった2 tトラックとの間にはさまれた。	10909	30～ 49
2007	12	13 ～ 14	ブル・ドーザーで碎石をならしていたところ、運転手が逸走（後退）してきたブル・ドーザーにはねられた。	30106	1～9
2007	5	9 ～ 10	墓石の土台を作成するために、小型ハンドガイド式不整地運搬車を用いて生コンクリートを後ろ向きにて運んでいた。方向転換を行ったところ背面にあった他家の墓石と小型ハンドガイド式運搬車にはさまれた。	30209	1～9
2007	10	11 ～ 12	砂利碎石プラント構内でトラクター・ショベルの運転者は、土砂をバケットに積載し堆積場所に沿って左カーブを前進走行中、左後輪に衝撃を感じたため、左後方を確認したところ、仰向けに倒れていた被災者を発見した。	10909	10～ 29
2007	8	8 ～ 9	被災者は、合材工場内において、アスファルト骨材（砂利）の水分量検査に必要となる試料採取のため、ストックヤード付近を歩行していたところ、ストックヤードからコールドホッパーに骨材を投入していたトラクター・ショベルが後進した際にひかれた。	170209	1～9
2007	12	11 ～ 12	被災者は、道路建設工事現場においてアスファルト舗装を行うため、道路隅に木製の型枠材を敷き並べる作業を行っていたところ、被災者の前方より後進してきたモーター・グレーダーの左後輪にひかれた。	30106	10～ 29
2007	3	17 ～ 18	被災者が一人で敷地内にある雪をトラクター・ショベルを使って除雪作業中、バケットと車体の間にはさまれた。	80202	1～9
2006	11	13	県道バイパス工事に伴う交差点改良工事において、ブル・ドーザーによる路面の敷きならし作業中、ブル・ドーザーが後進していたところ、ショベルを	30106	10～

		14	持って敷きならし作業を行っていた被災者をクローラーの端で轢いた。		29
2006	10	16 ～ 17	建設機械（トラクター・ショベル）の後方に給油車を止め建設機械に給油作業を行っていた被災者が、後退した建設機械と給油車との間に挟まれた。	80204	1～9
2006	9	13 ～ 14	町有林の地拵作業において、レーキ・ドーザーを傾斜約40度の斜面に停車させ、斜面に降りて、同僚二人と枝をレーキ・ドーザーの前に集めていた被災者が、再びレーキ・ドーザーに乗り込もうとクローラーの上に乗った際に、レーキ・ドーザーが逸走して轢かれた。	60209	10～ 29
2006	4	19 ～ 20	トラクターショベルを移送するために、荷台傾斜式貨物自動車（セルフローダー）の荷台を傾斜させて積載後、被災者が荷台後部で道板の収納作業をしていたところ、荷台に積載したトラクターショベルが動き出し、被災者がひかれた。	40301	10～ 29
2006	1	8 ～ 9	ほ場造成工事現場内の平坦な場所において、被災者がブル・ドーザーを用いて整地作業を行っている際、運転席より左側に転落し、自らが運転する当該機械の左側履帯に巻き込まれ、被災した。	30199	1～9
2005	9	10 ～ 11	県道の舗装工事現場において、路面を掘り起こす作業を行っていたモーター・グレーダーが後退した際、路肩付近で交通誘導を行っていた被災者が引かれた。	170201	10～ 29
2005	5	11 ～ 12	貨物船から杉チップの水切り作業中、船倉内の杉チップ上を走行中のトリミング・ドーザーが下り坂で前方に傾き、運転中の被災者が運転席から機体前方に投げ出されクローラでひかれた。	50202	100 ～ 299
2005	3	16 ～ 17	溶銑予備処理場において、溶銑運搬用列車の軌道上に積もったスラグをスコップで除去していたところ、走行してきたトラクター・ショベルにひかれた。	11001	1000 ～ 9999
2005	2	6 ～	ブル・ドーザーで下り坂を除雪して、坂を戻ろうとバック走行中、運転席上でバランスを崩してブル・ドーザーから転落した。その後さらに、ブル・ドーザーは後退を続けたため、被災者は運転席に乗り移ろうとしたが、再度	30106	1～9

		7	転倒し、ブル・ドーザー後方から巻き込まれ引きずられた。		
2005	6	11 ～ 12	製鋼工場において、破碎機にかけるスラグが工場内の通路に落ちていたの で、これを拾おうとした被災者がトラクター・ショベルから通路に降りたと ころ、同僚が運転する他のトラクター・ショベルにひかれた。	10909	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	国道の歩道改良工事において、ホイールローダーを使用し採石の均し作業を するため後退したところ、現場の作業状況の写真撮影をしていた被災者に激 突した。	30106	1～9
2005	7	16 ～ 17	水田の基盤整備事業の工事現場内において、ブル・ドーザーを運転していた 被災者が、盛土の斜面で、自分の運転していたブル・ドーザーのクローラ部 分でひかれた。	30199	30～ 49
2005	11	15 ～ 16	片側道路規制を行っている工事現場において、工事用ダンプトラックと一般 車両の誘導を行っていた被災者が別の作業者が誘導するドラグ・ショベルに ひかれた。	170201	100 ～ 299
2004	5	9 ～ 10	産業廃棄物選別棟において、分別棟内の電線置き場に廃棄物を置き、所定の 持ち場に戻る際、方向転換のため後退したトラクター・ショベルの後輪にひ かれた。	150102	1～9
2004	1	9 ～ 10	同僚とトラクター・ショベルの運転を交替し、運転室横ステージに乗ってい た被災者が、トラクター・ショベルが前進した際に転落、後輪に巻き込まれ てひかれた。	20201	10～ 29
2004	7	13 ～ 14	資材置場に止めていたブル・ドーザー（機体重量3.3t）を資材置場から約 100m離れた工事現場へ運転し向かったが、途中でエンジンが止まったため 歩いて工事現場に行き、同僚にその旨を伝えてから再びブル・ドーザーに 戻った。その後、現場に戻ってこない被災者のことを不審に思った同僚が見 に行くと、ブル・ドーザー右側のクローラに仰向けの状態でひかれている被 災者を発見した。	30109	1～9
2004	9	8 ～	処理済鶏糞をホイール式トラクタショベルで、4tトラックに積み込む作業 中、トラクタショベルの後方にいた被災者がバックしたトラクタショベルの	70101	10～

		9	左側後輪にひかれた。		29
2004	8	16 ～ 17	農道整備にかかる下層路盤の置換工事現場で、10 t ダンプカーから小分けし下ろされた碎石の山を、ドラグ・ショベルの排土板を使い前進、後退させながら路面を平らに整地、転圧を行っていた際、ドラグ・ショベルの後方でスコップを使いならしていた被災者に激突した。	30106	1～9
2004	9	10 ～ 11	車両系建設機械を運転する業務に係る職業訓練の実習中、訓練生が運転しやすくするためにブル・ドーザーを使って盛土をならす作業を行っていたところ、盛土個所にあった高さ約1.5mの段差を後進で乗り越えた衝撃でブル・ドーザーを運転していた被災者が運転席から後ろに投げ出され、後進を続けていたブル・ドーザーのクローラにひかれた。	120109	30～ 49
2004	4	15 ～ 16	木材製品製造工場の工場建屋内に駐車するために移動していたトラクター・ショベルの後方に誤って立ち入り、後退してきたトラクター・ショベルに接触した。	10401	1～9
2004	7	11 ～ 12	牛の排泄物運搬等に使用しているトラクター・ショベルのエンジンルームの清掃を行うため、後輪を角材の上に乗せエンジンルームの底板を取り外すため車両の下に潜って作業していたところ、後輪が角材端部から落ち車両と地面の間に挟まれた。	70101	1～9
2003	11	14 ～ 15	保安林管理道整備工事において、道路側溝となるU型トラフをつるために使用していたドラグ・ショベルを後方へ移動させようとしたときに、ドラグ・ショベルと後方に停車していた敷モルタルを積載したダンプ・トラックとの間にはさまれた。	30106	10～ 29
2003	9	7 ～ 8	作業ヤード内で、内装解体現場よりトラックで搬入した廃材を重機で摘みショベルローダーのバケットに移していて、こぼれ落ちた廃材を拾うとしてトラックとローダー間に入ってきたときに、ローダー運転手がローダーを後進させようとして前進させてしまったため、ローダーバケットとトラック荷台との間に腹部をはさまれた。	150102	10～ 29
		15	バースで荷揚げした銅の原料を貯鉱庫へ運搬するため、貯鉱庫内で10tダン		50～

2003	8	～ 16	プの誘導していたときに、トラクター・ショベル(体質量13t)が後退してきて右前輪でひかれた。	40301	99
2003	6	～ 12	ホイール・ローダーで堆肥の切り替え作業を行っていたところ、ローダーのアーム油圧シリンダー部の油圧ホースがパンクしたので油圧ホースを取り替えるため、バケットを上げて前輪の間に立って油圧ホースのナットを緩めていたときに、バケットが降下してきてアームとローダー本体との間に頭部をはさまれた。	170209	30～ 49
2003	6	～ 12	トラクター・ショベル（機体質量1.5t）を使用してドラム缶（約200kg）をつり上げる作業で、玉掛けのためトラクター・ショベルのアームを上げた状態で運転席から降りようしたときに、運転席内のアームを降下させるペダルに触れたためアームが降下し、アームはドラム缶に当たって停止したがアームの油圧の力により前輪が浮き上がり、アームと車体の間に頭部をはさまれた。	150102	1～9
2003	4	～ 11	ブル・ドーザーをトレーラーに積み込む作業中、後進してきた無人のブル・ドーザーに全身をひかれた。	30106	10～ 29
2003	4	～ 9	清掃センターの焼却灰埋立地において、灰の均しに使用するブル・ドーザー（機体質量12t）の燃料を補給するため、燃料を入れたドラム缶を置いている斜面6度の坂に止めていたところ、無人のブル・ドーザーが後退してきて履帯の下敷きとなった。	150103	1～9
2003	3	～ 11	ゴミの中間処理場で、手作業でゴミの選別作業をしていたときに、直進してきたホイールローダーにひかれた。	150102	10～ 29
2003	1	～ 16	保冷車（2t車）の曲がった右サイドバンパーを修理するため、修理箇所とトラクター・ショベルの後部牽引箇所をワイヤロープで繋いでショベルで引っ張る作業を行い、修理箇所が元にもどったのでワイヤを緩めようとショベルが後進しているときに、ショベル側のワイヤを外そうとしてショベルと保冷車との間に立入り胸部をはさまれた。	40301	100 ～ 299

2002	10	17 ～ 18	道路上の敷鉄板表面についた泥をドラグショベルのバケットで取り除く作業で、オペレーターが運転席から後方に誰もいないことを確認したのち1mほど後進したときに、交通誘導員を右側クローラで轢いた。	170201	10～ 29
2002	4	9 ～ 10	下水道排水施設工事で、埋め戻される掘削土の土質改良を行う土質改良プラントの施工状況を写真撮影するため、黒板にかがんで記入していたときに、後退してきたトラクターショベルに轢かれた。	30110	1～9
2002	6	16 ～ 17	土捨て場に運び込まれた土砂の均し作業で、途中でブル・ドーザーが動かなくなったため運転席左側の覆帯に乗り運転席前方のエンジン部分を点検していたときに、突然ブル・ドーザーが動き出したためキャタピラに巻き込まれた。	30199	1～9
2002	5	0 ～ 1	碎石の積み込みを行うため、ショベルローダー（20t）の近くに大型ダンプを止めてダンプから降りて敷地内を歩いていたところ、後退してきたショベルローダーに轢かれた。	170209	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	トラクターショベル（機体質量6.8 t）で束ねられたビニールハウスの骨組用鉄製パイプを吊り上げて運搬中、トラクターショベルの前方でパイプの振れ防止のため介添えしていた者がトラクターショベルに轢かれた。	170209	1～9
2002	5	16 ～ 17	河川改修工事において、土止め支保工を設置した河床で車両系建設機械（油圧式ドラグショベル）により川底の掘削作業を行っていたときに、土止め支保工の切梁と車体運転席との間に挟まれた。	30107	10～ 29
2002	3	9 ～ 10	ブロック積擁壁設置工事のコンクリート打設作業で、ドラグショベル（機体質量9220kg）のバケット（容量0.5?）のフックにワイヤーをかけて吊る作業が終了したので、県道上でバケットをショベルのバケットフックから外しているときに、ショベルのバケットとコンクリートバケットとの間に身体を挟まれ死亡した。	30106	10～ 29
2002	4	17 ～ 18	農業用水配水管埋設のため掘削した溝の中で、クラムシェルにより降ろした土砂をドラグショベルで切梁下へ敷き均していたときに、ドラグショベルが後退したためドラグショベルの走行レバーと後方に設置されていた切梁との	30107	30～ 49

			間に挟まれた。		
2002	3	11 ～ 12	トラックローダーのアタッチメント取付基部（バケットストッパー）の調整中、アームが下降してきて本体とアームとの間に挟まれた。	11702	1～9
2002	3	10 ～ 11	土地造成工事で、ブルドーザーを運転して高さ1.35mの盛土を乗り越えたときに、運転席から転落してブルドーザーに轢かれた。	30109	1～9
2002	3	15 ～ 16	ずい道内において、ずり積み機の油圧ホース端末が固定されていないことに気づき、バケットテーブル（ずりをすくい上げる装置）に乗って番線で固定していたときに、ずり積み機のオペレーターがバケットテーブルを開いたため、テーブルと坑内の壁面との間に胸部と腹部を挟まれた。	30102	1～9
2001	12	16 ～ 17	送電線鉄塔基礎の築山法面に設置したコンクリート花壇の欠けた部分のモルタル補修を行っていたときに、排土板付のドラグショベル(機体質量5.6t)が敷地内の整地のため表土を押し均ながら進んできて、アーム先端のバケットでバケットとコンクリート花壇との間にはさまれた。	30201	10～ 29
2001	10	10 ～ 11	0.02クラスのドラグショベルで共同溝内底盤の荒仕上げ作業中に、走行レバーに触れたためドラグショベルが切梁の下を通過し、背中側から押される形で切梁とドラグショベルの走行レバー及び前側のガードとの間に挟まれた。	30199	10～ 29
2001	8	13 ～ 14	ブルドーザーをセルフローダー(荷台傾斜式貨物自動車)から降ろす作業中、セルフローダーの運転席から降りていてブルドーザーに巻き込まれキャタピラー右前部と排土板との間に挟まれた。	40301	1～9
2001	7	16 ～ 17	残土置場において、2tダンプの荷台後方で搬出土が路面に落ちないように均していたときに、後進してきた同僚の運転するホイールローダ後部とダンプ後部との間に胸部を挟まれた。	30110	1～9
2001	4	13 ～	石灰石鉱山の石灰石貯鉱槽にゲートを新設する工事において、部品を取り付けるためトラクターショベルのバケットに乗って作業を行っているときに作	20309	30～ 49

		14	業ゲートとバケットとの間に挟まれた。		
2001	5	10 ～ 11	トラクターショベルで4段に積まれていた材の束のうち一番上の材の束を降ろしていたときに異常があったので途中で止め、エンジンをかけたまま運転席から降りて材の束の前方に回ったときに、トラクターショベルが動き出し、積まれていた材の束とトラクターショベルで降ろしていた材の束との間に挟まれた。	80109	10～ 29
2001	3	16 ～ 17	ドラグショベルにヘッドガードを取り付ける作業で、原動機を止めないままショベルにヘッドガードをのせたところ、前方の運転席側に傾いて前後進レバーにかかった状態となったので、立て直そうとして後方に引いてしまったためレバーが後進に入ってドラグショベルが後進し、左クローラー上でヘッドガードを保持していた者が左クローラーにひかれた。	30199	1～9
2001	1	7 ～ 8	前日までに伐倒したトドマツの伐倒木をブルドーザーで集材するため、牽引用ワイヤーロープをウインチから引き出そうとしたが重くて引き出せなかったため、ウインチを動かすため重機運転手が運転席に乗らずにエンジンをかけたところブルが後進し、ブルの後方に居た集材夫がひかれた。	60201	1～9
2000	11	8 ～ 9	碎石現場内を、タイヤショベル(機体質量20t)で走行中に、オペレーターが前方の作業者に気付かずに右側前輪でひいた。	20201	1～9
2000	3	16 ～ 17	配水管布設工事において、ダンプから碎石を降ろす作業をしていたドラグショベルの近くで一般車輛などの誘導者がバックしてきたドラグショベルにひかれた。	170201	50～ 99
2000	12	10 ～ 11	国道下に埋設された下水道枝管を埋設する工事で、道路上の一般車輛等の交通誘導中の警備員が後退してきた小型のドラグショベルのクローラ部に左足首から左大腿部にかけて踏み潰された。	170201	1～9
2000	8	17 ～ 18	トレーラに積んでいた木材(角材を10本結束したもの330組)が崩れかかっていたため、トラクターショベルのバケット先端部で木材を押して荷崩れを直そうとして運転者がアクセルを強く踏み込んだため急激に前進し、当て木を持っていた者がトレーラの荷台とバケットの間に胸部を挟まれた。	40301	10～ 29

2000	6	14 ～ 15	倉庫内で廃棄物であるベッドのマットレスの解体作業を行っていたときに、バックしてきたトラクターショベルに接触転倒し、ショベルの右前輪に胸部をひかれた。	150102	10～ 29
2000	2	14 ～ 15	海岸改良工事において、トラクター・ショベルで仮設用道路の脇に砂を運搬していたときに工事用写真の準備作業をしていた労働者2名をひいた。(1名死亡、1名休業)	30309	30～ 49
2000	7	19 ～ 20	作業所内においてトラクターショベルを操作して分別した産廃ごみをコンベア横に押し集めるため前進させたところ、付近にいた者を右前輪でひいた。	150102	30～ 49
2000	4	16 ～ 17	モータグレーダで傾斜に面した工事用道路の整地作業をおこなっていて、運転していたモーターグレーダにひかれた。	30107	10～ 29
2000	8	8 ～ 9	船から降ろされた木材の検数作業中、船上の木材を降ろす移動式クレーンのグラップルを運搬していたフォークローダーにひかれた。	170209	10～ 29
2000	7	11 ～ 12	事業場構内の不燃物処理資源化施設からごみ焼却施設に可燃物を運ぶため、トラクター・ショベルのバケットに可燃物を積載して後退したところ、後方にいた者をひいた。	150103	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	作業現場に生コンを運搬するため、ドラグショベルのバケットに生コン車シューターから生コンを投入していて、車後部のステップに上がり、シューターに残った生コンを生コン車運転手が掻き落とす作業をしていたときに、ショベル運転手が立ち上がって生コンの残量を確認し座席に座ったところ、防寒服が操作レバーに引っ掛かったためショベルアームが左に旋回し、ショベルバケットと生コン車との間に胸を挟まれた。	10901	10～ 29
2000	11	10 ～ 11	農地に火山灰を入れる土壌改良工事において、仮設道路にダンプが進入してきたので火山灰を均す作業をしていたブルドーザー(機体重量4.9t)が仮設道路外に出て交すために後退したときにそこにいた者をひいた。	30199	10～ 29

2000	2	0 ～ 1	伐採木の搬出作業を行っていたブル・ドーザーのオペレーターが、かかり木の処理を行うために林の中に入れて機体を反転させて後退を始めたときに作業者をひいてしまった。	60201	10～ 29
1999	12	17 ～ 18	下水道工事が終了したので翌日の工事に備え開口部に雪が入るのを防止するビニルシート掛け作業をしていたときに、駐機場所へ移動中のバックホーにひかれた。	30110	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	積荷のドロマイドを陸揚げするため、船倉内においてブルドーザー(機体重量5t)でドロマイドをかき寄せる作業しているときに、ブルドーザーをハッチの下まで入れ過ぎたため、ハッチとブルドーザーの運転席のレバーとの間に挟まれた。	50101	300 ～ 499
1999	11	10 ～ 11	ブルドーザーを使用して路盤上に砂利を敷き均す作業を行っていたときに、後方で砂利をかく作業をしていた者をバック走行でひいた。	30199	10～ 29
1999	10	13 ～ 14	碎石の積み込みを終えた2トントラックのあおりの固定を行っていたときに、採石場のトラクターショベルが後退してきてトラックとショベルとの間に挟まれた。	30201	1～9
1999	10	9 ～ 10	ブルドーザーでトドマツ材(径24cm×33cm、長さ5.45m)を斜面から運材道まで引き出して、ブルドーザーを停止させ運転席から降りようとしたときに、誤って足を踏み外して落下し、傾斜のため動き出したブルドーザーにひかれた。	60201	1～9
1999	9	14 ～ 15	傾斜がおおよそ4度のところにトラクターショベルを停止させ運転台から車体上へ移動しようとしたところ、トラクターショベルが動き始め12.6m走行した地点でトラクターショベルの左前輪にひかれた。	10901	30～ 49
1999	6	11 ～ 12	資材置場に一年前から放置していたバックホーを使用しようとしたが、バッテリーがあがっていたため4mケーブルを小型ダンプのバッテリーと接続してエンジンをかけたところ、バックホーが右旋回したため、ケーブルの巻き取り作業をしていた者が、小型ダンプ助手席ドアとバックホーのカウンターウエートとの間にはさまれた。	20209	1～9

1999	6	10 ～ 11	路床の深さをチェックするため、歩道側の水系と道路中心側の丁張を見通し しようとして腹ばいになったとき、歩道部の路床をならしていた3tブルトー ザが、後進してきてブルトーザの下敷きとなった。	30106	30～ 49
1999	6	13 ～ 14	駐車していたダンプ車を移動させるため、路床の整正をしていたドラグショ ベルの後方を通行していたときに、後退してきたドラグショベルにひかれ た。	30106	30～ 49
1999	4	17 ～ 18	ほ場整備工事において、現場の地盤の手直し箇所が生じたため、測量係の指 示する測点に立ち「スタッフ」を保持していたときに、後進してきたブル ドーザーの右履帯にひかれた。	30109	1～9
1999	4	15 ～ 16	スタビライザーによる地盤改良中に石が詰まりローターが動かなくなったの で、ハンマーで叩いて取り除くため、ローター部に潜り込んで石を取り除い たとき、その反動でローターが少し回転すると同時に石で持ち上げられてい たカバーが降下し、ローターとカバーとの間に挟まれた。	30106	1～9
1999	3	16 ～ 17	機体総重量9650kgのトラクターショベルで産業廃棄物の押し出し作業を行 い、その作業終了後、後進でその場から発進したときに、車両の後方で清掃 作業をしていた者を右側後輪でひいた。	150102	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。